



聖徒のための情報誌

今月号の内容

- 立教開宗会を迎える意義について(1面)
- 日蓮大聖人の歩まれた道
- よろこび佛教語解説
- 清道衆講習会の報告(2面)
- 法華経のお話⑩(3面)
- インド仏蹟参拝見聞記(4面)

平成24年(2012年)4月1日(日)

4月号

発行所  
〒873-0002  
大分県杵築市南杵築1539番地  
妙経寺内

日蓮宗霊断師会

会長 新聞智雄  
日蓮宗霊断師会事務局  
電話 0978-62-3570  
FAX 0978-62-3571

編集人 松本恵昌  
購読料 1部 105円  
毎月1回1日発行

日蓮宗霊断師会ホームページ  
http://www.yorokobi-reidanshikai.jp

よろこび投稿メール  
yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp

立教開宗会を迎える

意義について



日蓮宗霊断師会 教宣局長  
和歌山市信行寺・海禪院聖徒団団長

松本恵昌



立教開宗

大地震や津波、そして台風や飢饉などの天変地天(てんべんちよう)、幾多の騒乱が止めどなく起った鎌倉時代の初め。人々は苦しみに喘ぎながら天を仰ぎ、きつと心から救いを求めたことでしょう。そんな無数の人々の心の叫び(願い)は、やがてみ佛(壽量御本佛)の世界と呼応して、この娑婆世界に日蓮大聖人様をお使わし下されたのでした。

建長五年(一二五三)四月二十八日。清澄山頂より遙か彼方の洋上に向かい、今まさに昇らんとする朝日に向かって合掌し、声高らかに『南無妙法蓮華経』と御題目の第一声を発せられた大聖人様は、この時、御年三十二歳。爾来、日蓮宗ではこの日を『立教開宗』日蓮宗開宗の日と定め、大切な、大切な宗門の聖日としたのです。

大聖人様に包まれて

「日蓮は去る建長五年癸丑四月二十八日より、今弘安三年太歳庚辰十二月にいたるまで二十八年が間又侘事なし。只妙法蓮華経の七字五字を、日本國の一切衆生の口に入れんとはげむ計りなり。此れ即ち母の赤子の口に乳を入れんとはげむ慈悲なり。」(諫曉八幡鈔)

大聖人様の六十一年の御生涯は、末法今の人々(私達)に只『南無妙



清澄寺・旭が森での御題目

大聖人様の悲しみ

「我並びに我弟子諸難ありとも、疑ふ心なくわ(は)自然に佛界にいたるべし。天の加護なき事を疑はざれ、現世の安穩ならざる事をなげ(嘆)かざれ。」(開目鈔)

み佛(壽量御本佛)との約束、御

題目の信仰に生きようとする人には、必ず大きな苦難が立ちまわります。だからこそ、まさしく大聖人様の御生涯は苦難の連続でした。

けれど大聖人様は、迫害のあまりの凄まじさに弟子信徒が「千人の内九百九十九人までが」御題目の信仰を捨ててしまった「龍口法難」の時を捨て、これが「み佛の生命」を生きていく証である、溢れんばかりの法悦の中で、「法華経の行者」としての大確信を得られたのでした。

大聖人様の御生涯に於いていちばんお辛かったことは御法難ではなく、初めは信じて付いて来た弟子信徒が、途絶えることなく襲い来る迫害に、「総てを救う」というみ佛の誓願を我が約束とした事を忘れ、「み佛の生命」を生き通す信仰を疑い、諦め、捨ててしまったことでした。

この苦難は、立派に「み佛の生命」を生き通そうとするが故の試練なのだ、きつと大聖人様は去りゆく者に何度も何度もお伝えになりたかつたことでした。

たことでしょうか。きつとこんな悲しい別れが、何度も何度も大聖人様の御心を涙させたことでしょうか。

み佛の生命を継ぐ

今、大聖人様の御恩に報いる為にも、私達「聖徒」は、苦難の時にこそ「法華経」を、「御題目」を、「自分は立派に生きていくのだ」と言える実感をも、我が身の内に培わなければなりません。それが、互いに呼び呼ばれてみ佛の世界より生まれ、「み佛の生命」を受け継いだ証し(俱生神月守)を胸に、「佛」を生きたる私達「聖徒」の真の姿なのです。

「立教開宗」は、この輝きの最初の一步、「南無妙法蓮華経」の第一声が、大聖人様より発せられた、尊くも有難い御聖日なのです。

イラスト 小川けんいち

第五十回理事会を開催

二月二十八日(二十九日)、「日蓮宗霊断師会・第五十回理事会」が二日間の日程で、千葉市幕張の「メイプルイン幕張」を会場に開催された。

昨年「第四十九回理事会」の席上、新聞智雄会長は「霊断師会百年の大計を見据えた組織を、構築しなければならぬ。霊断師が本来の使命を全う出来るような、新たな組織づくりに進めたい。」と、その胸中を語られたが、まさしく今理事会は、宗祖日蓮大聖人のみ教えのもとに統一された日蓮宗における実践布教団体としてのありべき姿を目指した、発展的な議論が飛び交う白熱したものとなった。



決議文の上程

今理事会の決議をもって、新生日蓮宗霊断師会はここに始動。今年度、管区霊断師会を全国的に立ち上げ組織刷新の第一歩として、共に、会員資格の是正を促し、血統ではなく祖道を継承するのだとの大自覚をもった真の血脈に列なる純粋な会員が集う、霊断師としての独自性を持った布教活動を展開することとなった。

記事・松本

決議文

冬来たりなば春遠からじ。我が身は雪深き厳冬に在りと雖も、佛種は新しき命を芽吹くと見えたり。宗祖曰く「法華経を信する人は冬のごとし。冬は必ず春となる」等云々。

我等、今決議を以て当会体制の刷新を計り、宗門の枢要たる新生日蓮宗霊断師会として宗風宣揚の先駆けたらん事を誓願する者也。

仰ぎ願わくば、我等が堅忍不拔の行を父母と為し、春陽後胤の佛種永久に開敷せんことを。

平成二十四年二月二十九日  
日蓮宗霊断師会第五十回理事会

**津軽宇田山 閻法寺**

毎朝 5時半より「朝勤祈禱会」  
毎月 最終日曜日「感運祈願会」  
毎月 第2土曜日 午後3時より「唱題修行」  
午後4時より「勉強会」

〒030-1403  
青森県津軽郡外ヶ浜町平舘元宇田52-2  
TEL 0174-25-2712

住職 工藤 堯幸  
副住職 工藤 堯博・修徒 工藤 堯顯

**日蓮宗 東光山妙正寺 聖徒団**

東川町のおいしいお米を作っています

妙正寺聖徒団 菊地正晃

4月8日(日)午前11時～  
釈尊御降誕会(花まつり)。立教開宗会。  
毎月1日午前10時「感運祈願会」

妙正寺聖徒団 団長 関 龍雄  
〒071-1423  
北海道上川郡東川町東町2丁目6-3  
TEL 0166(82)2714  
FAX 0166(82)2914

いかされるよろこび

美濃乃國 常唱寺 聖徒団

〒501-3734  
岐阜県美濃市千畝町2738-2  
TEL/FAX 0575(33)1430

本山 妙蹟寺  
佐野 日蓮大聖人御真骨奉安

齊藤日軌貫首著  
「日蓮宗の戒壇、その現代的意義」  
国書刊行会

CD「感謝百万遍陀羅尼」  
CD「ないないブルース」

好評発売中!

〒327-0843  
栃木県佐野市堀米町264  
TEL 0283-22-1524  
FAX 0283-22-4194  
http://www.sano-myoukenji.jp

日蓮宗霊断師会会長  
感通寺聖徒団団長  
新聞 智雄

〒162-0044  
東京都新宿区喜久井町39  
TEL 03-3209-8782  
FAX 03-3208-7966

# 全国各地で「清道衆講習会」を開催！

昨年十一月に開催された青森県・蓮華寺聖徒団、東京都・長栄寺聖徒団、北海道・妙正寺聖徒団に続き、二月も全国二聖徒団で清道衆講習会が開催され、共に信仰を深めあった。

## 宮崎県・龍雲寺聖徒団

### 第三回清道衆講習会開催

二月二十二日(水)、宮崎県・龍雲寺聖徒団(吉田憲由団長)において「第三回清道衆講習会」が開催され、本部より濱田壽教講師(本部・伝道局長)が出向した。

龍雲寺聖徒団の地元・都農町は、昨年、口蹄疫の為に大きな被害を受けたが、当日は講義に先立ち、濱田講師より参加聖徒を通して広く都農町民にお見舞いの言葉が述べられ、供養の為の法要が修された。

参加聖徒三十名は、テキストに沿って優しく、分かりやすく自身の体験談を交えて語る濱田講師の講義に泣き笑いしつつ、お題目・俱生神月守の有難さについて一期一会の気持ちで熱心に研鑽に励んだ。

「感動の連続で、あつという間の勉強会でした。信仰の大切さを学び、お題目に出会えたご縁、お寺と出会えたご縁の有難さを改めて感じました。また来年もぜひ開催していただきたい」と、次回開催を待ち望む参加聖徒の瞳は、皆一様に輝いていた。



講習会を終わって記念撮影(龍雲寺)



天野行淳講師(妙福寺)



小泉輝泰講師(妙福寺)

二月二十六日(日)、栃木県高根沢町・妙福寺を会場に、「第十三回檀信徒のための聞法の集い」と題して「清道衆講習会」開催

## 栃木県支部合同(若林一乗支部長) 第十三回檀信徒のための聞法の集い(清道衆講習会) 開催

道衆講習会」が開催され、本部より天野行淳講師(本部・組織局長)、小泉輝泰講師(本部・総合研究所教学研究部長)が出向した。

講義は仏教の生い立ちから日蓮大聖人の教え、お題目・俱生神月守の有り難さについてまで、懇切丁寧に優しく分かりやすく進められ、参加した二十四名の聖徒はそれぞれに貴重な講義を受けたことに感謝し、「今回は初めての方も多く、参加出来て本当に良かった」と、よろこびの声。まことに実り多き集いの一日となった。

## 第十一回 よろこび 佛教語解説



総合研究所・ 霊研主任 新聞 信應

### 『禅波羅蜜』

暦はもう四月、桜のつぼみも大きくなり、あと数日もすれば綺麗な花を咲かせることでしょう。花を見ていると日々の嫌なことも忘れ、心が落ち着いてくるのは私だけでしょうか。

今月は『禅波羅蜜』という語です。「ぜんはらみつ」と読みます。同義語で禅定波羅蜜「ぜんじょうはらみつ」とも言います。

禅とは禅那の略で、精神を集中して我欲や私心のない境地に入ることを指し、定とは心が落ち着いて動揺しない状態をいいます。

私たちは何か起こった時に貪



私たちがお題目の信仰をしていく上で、必ずと言っていいほど色々な事が起きてきます。それはご本佛さまが私たちに与えて下さっている修行なのですが、お題目を信じられない人は、自分の思い通りにならなかったり、上手くいかなかったりした時、すぐに諦めて信仰を捨ててしまいます。

本日の信仰を持てる人とは、どんなことが起きようともお題目の功德を信じ、心の動揺を抑え、お題目をお唱えすることの出来る人なのです。

もし迷う心があれば桜の花を思い出して下さい。桜は唯ただ無心に花を開かせています。どんなに寒い冬がこようと、じつと耐えて春の訪れを信じ、春陽に満開の花を咲かせる。その姿が美しさと

なつて私たちの心を打つのです。何者にも惑わされず信じきる「絶対の信」を持って、共にお題目の道を歩んでまいりましょう。

イラスト 小川けんいち

## 第十二回 日蓮大聖人の歩まれた道

### 清澄寺ご入山(その四)



総合研究所 教学研究部長 小泉 輝泰

「そもそも人王八十二代隠岐の法王(後鳥羽上皇)と申す王有き。去ぬる承久三年(太歳辛巳)五月十五日、伊賀太郎判官光末を打捕まします。鎌倉の義時をうち給はむとの門出なり。やがて五畿七道の兵を召して、相州鎌倉の権の太夫義時を打ち給はんとし給うところに、還つて義時にまけ給いぬ。結局我身は隠岐の国にながされ、太子二人は佐渡の国、阿波の国にながされ給う。(中略)これはいかにとまげ給いけるぞ。国王の身として、民のごとくなる義時を打ち給はんは鷹の雉をとる、猫の鼠を食にてこそあるべけれ。これは猫のねずみにくらははれ、鷹の雉にとられたるやうなり」

この日本国に国家が形成されてより平安中期に到るまで、帝をはじめ朝廷勢力は絶大な力をもって国を統治していました。この当時の国の支配と言え、民「民」そして「土地」の掌握に他なりません。朝廷は律令制のもと国中に広大な御領地を設け、また地方の豪族や荘園領主に土地の安堵を約束し、租税を納めさせることにより、莫大な富と権力を得ていたのです。

しかしその力にもやがて衰えが見え始めました。厳しい税の取り立てや領主の不正横暴に、農民たちの不平不満は頂点に達していました。その中で有力な農民は新地の開墾によって力を蓄え、次第に領主や中央の権力を無視して自分たちで土地を



支配するようになっていったのです。自らの手で自らの耕す田畑を護るため、人々は徒党を組み、時には鍬や鋤を刀に持ち替えて戦いました。武士の誕生です。

中には元々荘官として都から派遣された役人が、こうした一党の中に加わりリーダーとしての才覚を発揮する者も現れました。やがてその者は「棟梁」と呼ばれ、勢力争いを重ねながら、次第に大武士団を率いていったのです。皆さんご存じの「平氏」や「源氏」の一門も、元を辿ればこうして誕生した棟梁たちでした。後は皆さんご承知の通り、源平合戦の始まり始まりです。

ちょうど今NHKの大河ドラマでは「平清盛」を放映していますので、ご覧になっている方も多いのではないのでしょうか。ドラマは平安末期の京都を舞台としますが、武士たちはみな御所の地に伏し、貴族から「王家の犬」と蔑まれる姿が描かれています。地方で勢力を増していった武士たちも、中央ではまだまだあの程度の身分の低い扱いです。いかに富や権力を失いつつあるとはいえ、朝廷、ことに帝や院ともなれば、我らとは一線を画す絶対的な存在であるという価値観が、当時の人々の心には根強く遺されていたのです。

それを覆していくのが、ドラマの中で活躍している父忠盛や主人公の清盛たちであり、やがて時代の大転換を果たす源頼朝であったのです。その顛末はここで語るよりも、毎週の放送を楽しみにしていた方がいいですね。

イラスト 小川けんいち

# 法華経のお話 10



総合研究所主任

塩入幹丈

## 無量義経の段 その九

大轉輪王小轉輪王。金輪銀輪諸輪之王。國王王子國臣國民。國士國女國大長者。各與眷屬百千萬數而自圍遶。來詣佛所頭面禮足遶百千匝。燒香散華種種供養。已退一面坐。

(無量義経徳行品第一)

佛教伝説の轉輪聖王、それはあのマケドニアの英雄アレキサンダーが、モンゴルの勇者チンギス・カンが、コルシカ島の怪物ナポレオンが、そしてナチス・ドイツの悪の天才ヒトラーが夢み果たしえなかった悲願、俗世間における人類最大の野望、世界征服を実現しうる唯一の男なのです…。

### ①王より皇

第一回目の放送早々、その内容以前に「王家！王家！王家！」の連発が話題となった、今年の大河ドラマ「平清盛」。

その用語の歴史的な正確さの是非はともかくも、皇室を王家呼ばわりすることに、多くの人が納得できなかったことでしょう。

もとより王はどんなに偉くても、天皇は無論、皇帝や帝王にすらラン

ク負けするというのが普通感覚。

(実際は単純に比較できるものではないでしょうが) 禿頭王シャルル二世や失地王ジョン、太陽王ルイ十四世等々よりも、イワン雷帝、ピョートル大帝、ナポレオン皇帝、ミキサール大帝等の方が、なんだか格上！と思ってしまうもの。

ならば世界征服を実現する男、轉輪聖王こそ真に皇帝や帝王と呼ぶべきでは…、との疑問もでてくることでしょう。

確かにその支配権の規模から言えば、王よりも帝か皇と名付けるべきでしょう。

しかしその統治のあり方、世の治め方から言えば、逆に王と呼ぶほうがふさわしいとも言えるのです。それは単なる君主のランクとしての王ではなく、王道を歩む者の意味としてです…。

### ②武王より唐堯・虞舜

「文王、殷の紂王に打たれしかば、武王百ヶ日が内、いくさををこしき。

白ひ・叔せいは武王の馬の口にとりつきていさめて云く、をやしして後三ヶ年が内いくさををこすは、あに不孝にあらずや(兄弟抄)

異体同心の鑑とも言うべき周が、同体異心の塊たる殷商王朝を打破し

た殷周革命。

この時、周の武王(成王の父にして周公の兄)を批判し、周の革命を真つ向から拒否したのが、当時高名な隠者(知的な二一トたちのこと)伯夷と叔斉の兄弟です。

二人は周の治世を否定するあまり、国土の食物さえも拒否した結果、餓死に至ります。

そこまで彼らが拘った周の許せなかつたこと、それは如何に殷商王朝が圧政(暴力)を行なつてきたとは言え、武王たちが武力(暴力)を以て政権を奪取した点です。

「堯舜等の聖人のときは、万民において偏頗なし。人界の佛界の一分なり(観心本尊抄)」

この武王に打倒された殷商王朝でさえ、その始まりは今より三七〇〇年もの昔ですが、その古き殷商よりも、さらにさらに古き伝説の時代に五人の帝たちが代々、ここ黄河の地を治めていたと言います。

その名を黄帝・顓頊・帝嚳・唐堯・虞舜、五人そろつて五帝!と申しま

この五帝は国民

を等しく慈しみ、正しく国を治めた高潔なる指導者であり、大聖人様も彼らこそ佛様の心の一分を發動させた聖者だ!と讃えられています。

万民を等しく慈しむ故に、五帝間での政権移動は、血筋よりも指導者の器の有無が何よりも優先されました。

徳ある人から徳ある人へ政権がゆずられる、本当の意味での禅譲です。伯夷と叔斉は、この平和の中で行なわれた五帝時代の政権交代を理想とする故に、暴力で政権奪取した武王の周を否定したわけです。

③霸王より王者

震旦(中国)の儒教では、武力や策略という力によつて天下を取り、世を支配することを霸道と言ひ、霸道を行う者を覇者、あるいは霸王と言ひます。(あの北斗四兄弟の長兄も暴力で世紀末の世を支配しようとしたから世紀末霸王と呼ばれたわけです)。

対して徳によつて人々を従え、平和裏に世を治めることを王道、王道を行う者こそ王者と言ひます。

徳による感化こそ最上の支配者、力にたよるなご下の下。

震旦では王者は理想の支配者として尊ばれたのです。

それは日本も同様です。江戸時代、朱子学(儒教)が盛んとなることで王道霸道の研究も深まり、武士たちの中には、実は自分たちの拠り所たる徳川幕府こそ霸王であり、皇室こそが尊き王者であることに気付いていきました。



これが後の王政復古の原動力の一つになつていくのです…。

徳によつて世を治める、この王者の治世こそ、轉輪聖王の統治と重なるものと言えるでしょう。

伯夷と叔斉に否定された武王は、後に孔子から聖者と再評価されたように、徳に染まらぬ凶悪に対しては王者も敢えて力を振るいますが、轉輪聖王も又、同様です。

徳に従わない反抗者たちに対しては、猛き戦士たちを遣わし、自身のターンには必殺のゴールドチャクラムを飛ばすと言ひます。

まさに轉輪聖王こそ真に王道を歩む者。その名は帝でも皇でもなく、王道の王こそがふさわしいと言えるでしょう。

そんな轉輪聖王の一分として、お釈迦様の法華経説法場に馳せ参じたと伝えられるのが、武王の周王朝第五番目の王、穆王なのです。

イラスト 小川けんいち

## 俱生神月守・靈断法のご案内

◆人にはみなそれぞれ「人生」という道がある。しかしその道の先はよくは見えず、地図もない。この先には大きな河が横たわっているかも知れず、大岩が障害物となつているかもしれない。人は誰もそれに気づかず「今」のみを飄々と歩く。そして河に阻まれ打ちひしがれ、大岩を前に愕然とする。◆私たちが日蓮宗聖徒団には九識靈断法という秘法があります。◆これは俗に言う占いの類とは違い、日蓮大聖人のお教えから生まれた有り難い秘法です。◆カーナビのように河や大岩など人生の中で進むべき道を阻む障害物を見通し、その迂回路を指し示し目的地へと導いてくださいます。人事万般なんでもご相談ください。◆また聖徒団には俱生神月守という不可思議な御守があり、河の前には橋となり、大岩の前には梯子となり、困難を乗り越える力となつて護つて下さいます。◆難病を癒す不思議な護符もあります。◆充実した人生を歩むため、最寄りの聖徒団のある寺院、教会、結社へお出かけください。

# 「釈尊降誕会のごうたんえ」

## インド仏蹟参拝見聞記



島根県  
龍泉寺聖徒団 団長  
菅部 一真

四月八日は釈迦様の「降誕会」(ごうたんえ)。私たち仏教徒にとって大切な聖日です。一般的には「花祭り」とか、天と地を指差した小さな誕生仏に甘茶をかける「灌仏会」(かんぶつえ)としてお祝いしますが、現代の世情は、クリスマスを楽しみにしても「花祭り」は知らないという子供の方が多く、そればかりか「うちは仏教です」と言いながらも、お釈迦様のご聖日はあまり意識しないという方も、たくさん居られると思います。「釈尊降誕会」を迎えるにあたり、お釈迦様のご生涯の聖地であるインドの四大仏蹟を訪ねてみましょう。

### 一、降誕の地・ルンビニー



降誕の地・ルンビニー

北インドの国境を越えた現在のネパール。遥かにヒマラヤの峰々を望むルンビニー園で花咲きほこる四月八日、お釈迦様は釈迦族の浄飯王(じょうぼうおう)と摩耶夫人(まやふじん)を両親に、太子としてご誕生なされました。ご幼名のゴータマ・シッダルタは「すべてのことがみな成就する」と言う意味です。仏伝によると、仏陀となるボサツは天界のトソツ天

より太子として降誕され、七歩踏み出し「天上天下(てんじょうてんげ)唯我独尊(ゆいがどくそん)」と述べられました。ルンビニー園は歓喜に包まれ、龍神は甘露の雨を降らせました。このことからお釈迦様の誕生日である花祭りを「降誕会」もしくは「灌仏会」と呼びます。ルンビニー園から車で一時間ほど西に走ったところに、お釈迦様が太子の時代を過ごされたカピラバストウ城の遺跡があります。

### 二、成道の地・ブッダガヤ



成道の地・ブッダガヤ

釈迦族の太子として成長されたお釈迦様はヤシヨードラー妃と結婚し長子ラーフラが誕生しますが、二十九歳の時、悟りを求めて城を出ました。しかし、ガンジス河に沿って南に下りながら師を求め六年にわたる修行を続けても、現在のビハール州のガヤ近郊にある前正覚山(ぜんしやうがくさん)での激しい苦行においても、求める真の悟りには至りません。体を痛めつけるだけの苦行を止めたお釈迦様は、尼連禪河(にれんぜんが)で沐浴して体を清め、村の娘スジャータの供養する乳粥で体力を取り戻した後、対岸の大きな菩提樹の下に座って深い禅定に入りました。そして、ついに十二月八日の夜明け、悟りを開かれ仏陀と成られたのです。この成道の地がブッダガヤで、現在は菩提樹の前に高さ五十二

メートルの大塔が聳(そび)え、東アジアを中心に世界中の仏教徒が祈りを捧げています。

### 三、初転法輪の地・サルナート

ブッダガヤの菩提樹下で悟りを開かれたお釈迦様は、当初、悟りの内容である「法」(ダルマ)を人々に説くことをためらわれませんでした。なぜなら教化すべき衆生が、まだ深い教えを受け入れる段階ではなかったからです。しかし、インドの神々である梵天や十方の諸仏の勧めにより立ち上がったお釈迦様は、二百数十キロほど西にある当時のバラモン教の聖地ベナレスに歩いて向かわれました。そして、ベナレス郊外の鹿野園(ろくやおん)で、かつて前正覚山の苦行林で一緒に修行した五人の比丘に迎えられ、初めて「法」を説かれました。



初転法輪の地・サルナート

これを初転法輪(しよてんぼりん)といい、この地がサルナートです。ここには日蓮宗の日月山初転法輪寺があり、近年立派な仏舍利塔が建立されました。

### 四、涅槃の地・クシナガル

四大仏蹟の最後がクシナガルです。三十五歳で悟りを開き、初転法輪から四十五年の長きにわたり、仏弟子をはじめ国王から村人に至るまで人々に教えを説き導かれたお釈迦様は、八十歳でそのご生涯を終えられます。生まれ故郷のルンビニーに向かうクシナガルの沙羅の樹の林の中に白い涅槃堂があります。お釈迦様は侍者の阿難尊者と共にガンジス河沿いに北上し、この地で村の鍛冶屋のチュンダに最後の供養を受けた後、沙羅双樹(しやらそうじゆ)の下に横になり、最期の教えを説いてご入滅されました。二月十五日が「涅槃会」(ねはんえ)です。さて、ご一緒にお釈迦様のご降誕、成道、



靈鷲山



涅槃の地・クシナガル

**佛壇駒形屋**  
〒070-0054 旭川市4条西5丁目2番3号  
TEL(0166)22-4643 FAX(0166)22-4672

代表取締役社長 駒形 貞洋  
各種寺院用仏具取扱い・修復等もお問合せ下さい  
仏壇・仏具・数珠・線香・ローソク各種  
お仏壇クリーニング・修復も行っております  
お気軽にお問合せ下さい  
全国発送承ります

**砥森山 法華寺**  
生きて救われの道場

住 職 阿部 是秀  
副住職 阿部 是真

〒028-0304  
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1  
電話 0198-67-3166  
FAX 0198-67-2227

**正立山 妙法寺番神聖徒団**  
団長 新聞 信應

毎月1日 10時  
盛運祈願祭

お困り事はすぐ相談

神秘秘密の扉が開く時、必ず利益がいただける。

〒690-2404 島根県雲南市三刀屋町三刀屋1169  
TEL 0854-45-3657  
FAX 0854-45-3666

**(株)伊藤家石材**  
〒070-0831 北海道旭川市旭町1条19丁目  
TEL(0166)51-5017 FAX(0166)54-3272

新規墓石建立・墓石のリフォーム・墓石の移転工事  
戒名刻字・各種墓石用品、取り扱いしております。  
御見積もりは無料です。お気軽にご相談下さい。

安房乃國随一  
三十番神祈願道場

**顕本寺聖徒団**  
団長 小泉 輝泰

「1人で悩まず、まずは相談」  
〒295-0002  
千葉県南房総市千倉町川合690-1  
TEL 0470-44-1062  
FAX 0470-44-1524